重要ではない。」という回答の割合が多く、中には「直ぐに言うことはしない。」と、あえて説明は慎重に行うことを述べる意見があった。診断説明は医療的な支援の第一歩であるため、医師としては親との間に十分な信頼関係を築くことが大切となる。そのため、親は子どもの状態をどのように理解しているのか、実際に診断を告げることによって親や子どもにどのような影響を与えるのか、告げた後にどのような展開が予想されるのかを吟味しながら診断説明を進めている様子であった。

これまでの多くの研究では、発達障害児の予後においては早期診断は早期からの支援導入において大変重要であるという認識が広く浸透し、当事者家族の思いを調査したものでは、「診断はできれば早い方がよい。」という意見が多い。しかしその一方で、親が子どもの発達障害特性を正しく理解して適切な対応をとり、良好な親子関係を築いていくためには、それなりの時間と試行錯誤が必要であり、早すぎる診断告知はかえって親の拒否感を招いたり、知識が先行して基本的な養育意欲を損なう危険性もあることを危惧する意見もある。また実際には診断そのものが重要なのではなく、あくまで子どもの特徴と傾向を正しく捉え、それに適した関わりを行っていくことが重要で、そのような適切な対応を早期に行うことは大切であるが診断そのものを告げる適切な時期はそれぞれのケースによって異なるのではないかと主張する意見もある。このように実際の臨床現場では、ステレオタイプに「早ければよい。」ということではなく、早期診断の必要性と現実の親の障害受容や支援の展開において要求される慎重さとのバランスをとりながら診断説明が行われているのであろうと推察される。

また実際の診断説明においても医師達は親にとって少しでも分かりやすく、また受け入れやすいように様々な工夫を凝らしている様子が伺えた。しかしながら実際の伝え方としては、口頭のみで伝えているケースも少なくなく、実際に親に分かりやすく説明するのに苦労しているかどうかを尋ねる質問に、52.1%の医師が「全くそのとおりに思う(13.0%)。」もしくは「ある程度そのように思う(39.1%)。」と回答していることから、予備知識の少ない親にとって、より分かりやすく整理して考えるための説明方法を検討する必要があるかもしれない。特に近年、発達障害をあくまで境界不明瞭なスペクトラムとしての特性であり、不全状態というより非定型的であり、その特性は成長や学習、環境要因などによって変化するものと捉える考え方が深まり、以前よりも発達障害そのものに対する認識が大きく変化してきている。また知的障害を伴わない高機能タイプや特性が軽度で境界域の発達障害児の存在など、従来の障害概念では理解が不十分になりつつある。今回の調査においても診断説明用のガイドブックの必要性を支持する声も多いことから、このような近年の発達障害の捉え方や、いわゆる古典的ではない発達障害特性についても理解を得られるような診断説明の資料（ガイドブック）が必要なのではないだろうか。このような実態を踏まえて、我々は医師が親に近年の発達障害についての認識と最新の科学的知見を踏まえながら正しい障害特性理解を深められるようなガイドブックの作成に既に取り掛かっている。

また先述のように診断説明は本格的な支援の第一歩であるため、説明後に具体的な支援策が展開される必要がある。しかし説明後のフォローとして、「子どもの療育やトレーニン

グを速やかに開始することは重要だと思うが現実に行うのは難しい状況。」と回答した医師も少なくなく、「診断説明後の子どもへの具体的手立てや親のサポートシステムをもっと充実させたい。」と願う声が大変多かった。今後社会全体の発達障害への理解と認識を深めていくことや、具体的な支援体制の構築は非常に重要であり、それが充実してこそ、支援の第一歩が安心して踏み出せるようになるのではないかと思われる。

E. 結論

全国の発達障害児臨床を行う医師を対象に、知的障害を伴わない高機能広汎性発達障害児の親への診断説明の実態と親への診断説明に対する意識調査を郵送による質問紙にて行った。

それによると親に診断説明を行う医師達は、様々な配慮と工夫をしながら日々の診療にあたっている様子が明らかとなった。しかし実際には親に分かりやすく説明するのに苦労しているという答えが過半数に認められ、診断説明における資料（ガイドブックなど）の必要性を支持する意見も多かった。

診断説明は本格的な支援の第一歩であるため、説明後に具体的な支援策が展開される必要があるが、現状ではその後の療育や支援が十分展開できないという声も聞かれ、今後社会全体の発達障害への理解と認識を深めていくことや、子ども本人や親への支援システムを充実させることが大変重要であると思われた。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

論文発表

(1)宮地泰士. 学齢期の広汎性発達障害　小児科診療 73(4): 2010 in press

(2)宮地泰士, 石川道子, 井口敏行, 今枝正行, 浅井朋子. 広汎性発達障害児における不登校の発生状況とその対応について. 小児科臨床: 2010 in press

学会発表

(1)宮地泰士. 広汎性発達障害の早期徴候と早期診断に対する親の意識調査. 第30回日本小児神経学会東海地方会. 2009年1月24日　名古屋

(2)宮地泰士, 神谷美里, 野村香代, 吉橋由香, 辻井正次. 医師を対象とした広汎性発達障害児本人への診断説明状況調査. 第101回日本小児精神神経学会　東京

H. 知的財産権の出願

登録状況、登録ともになし。

業績一覧（平成 19 年度～平成 21 年度）

辻井正次

＜学術論文・学術雑誌＞

海外

1. Fujita-Shimizu A, Suzuki K, Nakamura K, Miyachi T, Matsuzaki H, Kajizuka M, Shinmura C, Iwata Y, Suda S, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Sugihara G, Iwata K, Yamamoto S, Tsujii M, Sugiyama T, Takei N, Mori N. Decreased serum levels of adiponectin in subjects with autism. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2010 Jan 13. [Epub ahead of print]
2. Kajizuka M, Miyachi T, Matsuzaki H, Iwata K, Shinmura C, Suzuki K, Suda S, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Iwata Y, Nakamura K, Tsujii M, Sugiyama T, Takei N, Mori N. Serum levels of platelet-derived growth factor BB homodimers are increased in male children with autism. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2010 Feb 1;34(1):154-8. Epub 2009 Oct 29.
3. Maekawa M, Iwayama Y, Nakamura K, Sato M, Toyota T, Ohnishi T, Yamada K, Miyachi T, Tsujii M, Hattori E, Maekawa N, Osumi N, Mori N, Yoshikawa T. A novel missense mutation (Leu46Val) of PAX6 found in an autistic patient. Neurosci Lett. 2009 Oct 25;462(3):267-71. Epub 2009 Jul 14.
4. Maekawa M, Iwayama Y, Arai R, Nakamura K, Ohnishi T, Toyota T, Tsujii M, Okazaki Y, Osumi N, Owada Y, Mori N, Yoshikawa T. Polymorphism screening of brain-expressed FABP7, 5 and 3 genes and association studies in autism and schizophrenia in Japanese subjects. J Hum Genet. 2010 Feb;55(2):127-30. Epub 2010 Jan 8.
5. Miyahara, Motohide; Ruffman, Ted; Fujita, Chikako; Tsujii, Masatsugu. How Well Can Young People with Asperger's Disorder Recognize Threat and Learn about Affect in Faces?: A Pilot Study. Research in Autism Spectrum Disorders, v4 n2 p242-248 Apr-Jun 2010
6. Nakamura K, Sekine Y, Ouchi Y, Tsujii M, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Tsuchiya KJ, Sugihara G, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Suda S, Sugiyama T, Takei N, Mori N. Brain serotonin and dopamine transporter bindings in adults with high-functioning autism. Arch Gen Psychiatry. 2010 Jan;67(1):59-68.
7. Suzuki K, Nishimura K, Sugihara G, Nakamura K, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Takebayashi K, Isoda H, Sakahara H, Sugiyama T, Tsujii M, Takei N, Mori N. Metabolite alterations in the hippocampus of high-functioning adult subjects with autism. Int J Neuropsychopharmacol. 2009 Nov 9:1-6. [Epub ahead of print]

＜学術論文＞

国内

1. 神谷美里・辻井正次　高機能広汎性発達障害青年の性役割観に関する一考察．中京大学現代社会学部紀要, 2(1), 1-15, 2009
2. 神谷美里・吉橋由香・宮地泰士・永田雅子・辻井正次　高機能広汎性発達障害児を対象とした「不安のコントロール」プログラム作成の試み　小児の精神と神経　50(1), 71-81, 2010/3
3. 川上 ちひろ・辻井 正次　思春期広汎性発達障害児の性行動の特徴と保護者のニーズの検討 小児の精神と神経 49(2), (183) 163-170, 2009/6
4. 小泉晋一・辻井正次　自閉性障害　4. 自閉症スペクトラム障害の人に対する家族の接し方と対応．精神療法・心理社会療法ガイドライン　精神科治療学　24 号増刊号, 310－311, 2009
5. 満田 健人・明翫 光宜・辻井 正次 PF スタディ反応における広汎性発達障害児と定型発達児の比較研究 小児の精神と神経 49(3), (184) 221-230, 2009/9
6. 谷伊織・吉橋由香・神谷美里・宮地泰士・野村香代・伊藤大幸・辻井正次　抑うつと特性不安から見た小中学生の精神的健康の構造的検討．精神医学, 52(3):265-273, 2010/3
7. 辻井正次　高機能広汎性発達障害の自己調節機能　－支援の方向性に関する予備的検討．中京大学現代社会学部紀要, 2(2), 1-11, 2009
8. 辻井正次 , 伊藤 沙智子 支援システム・支援グループ--NPO 法人アスペ・エルデの会の取り組みから（アスペルガー症候群の子どもの発達理解と発達援助）-- （アスペルガー症候群の援助）. 別冊発達 (30) 281-288 ,2009/8
9. 吉橋由香・藤田知加子・辻井正次　広汎性発達障害児の感情の概念的理解と自己の感情体験の統合に関する研究．中京大学現代社会学部紀要, 2(1), 17-39, 2009
10. 吉橋由香・藤田知加子・川上正浩・辻井正次　高機能広汎性発達障害の意味的ネットワーク構造の特徴--言語連想課題を用いた検討．小児の精神と神経 49(2), (183) 149-161 ,2009/6
11. 吉橋由香・神谷美里・宮地泰士・辻井正次　高機能広汎性発達障害男児の自己の感情の認知?感情喚起状況における表情表出に関する認知の検討　小児の精神と神経 49(3), 201-211 ,2009/11

＜書籍＞

1. 林 陽子・辻井 正次　子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(4)自分の気持ちを知る--感情理解スキルの基礎．こころの科学(149) 136-141, 2010/1
2. 神谷美里、吉橋由香、野村香代、辻井正次　通常学級における新たな教育的アプロー

チの試み―“個性の理解”“感情の理解”のためのワークブックの開発　月刊生徒指導,40(1), 40-46.　2010/1. 学事出版.
3. 小泉晋一,・辻井正次　子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(3) 子どもたちが身体を知る.　こころの科学(148) ,139-144, 2009/11
4. 大隅香苗,辻井正次　子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(5)困ったときにどうしたらいいかを知る--助けを呼ぶスキル. こころの科学(150) 152-158, 2010/315.
5. 田倉さやか,辻井正次　自閉症スペクトラムの概念と発達支援.　作業療法ジャーナル,44(3), 186-191, 2010
6. 辻井正次　子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(新連載・1)発達障害とともに生きること--スキル・トレーニングが必要なわけ. こころの科学 (146) 97-101 ,2009/7
7. 辻井正次　子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(2)日常で困ることの分析と準備--子どもたちが困ったときに前向きになるために.　こころの科学 (147) 115-121 ,2009/9
8. 辻井正次　発達障害のある子どもたちの家庭と学校（1）発達障害があるということ. 子どもの心と学校臨床　1,　89-100. 2009/9,　遠見書房
9. 辻井正次　発達障害のある子どもたちの家庭と学校（2）発達障害が理解されないことで困ること.　子どもの心と学校臨床　2,　89-96.　2010/2,　遠見書房
10. 辻井正次　学校における発達障害のある子どもたちのための「あたり前の」サポート作戦.　子どもの心と学校臨床　2,　2-9.　2010/2,　遠見書房
11. 辻井 正次 特別支援教育で始まる、子どもの〈苦手〉を〈得意〉にする工夫の仕方--通常学級にあたり前に発達障害の子どもたちが学んでいる現実の中で（通常学級で使える 特別支援教育 実践のコツ）. 児童心理 63(18), (906) 1-10, 2009/12

分担執筆者

井上雅彦

＜学術論文＞

1. 井上雅彦 (2009)　自閉症に対するエビデンスに基づく実践を我が国に定着させるための戦略　行動分析学研究 23(2), 173-183
2. 井上雅彦 (2009) 自閉症における応用行動分析学からのアプローチとそのエビデンス 精神療法・心理社会療法ガイドライン　精神科治療学 24.増刊号 306-307
3. 井上雅彦 (2009) 発達障害のある子どもが集団のルールで動けるために 児童心理 63(18),　(906) 100～105
4. 井上雅彦 (2009) 広汎性発達障害のある子どもの感情理解と表現への支援 児童心理

63(7), (895)　663～667

5. 井上 雅彦, 大羽 沢子, 猪子 秀太郎, 梅川康治 , 真城知己 (2009) 特別支援教育のための応用行動分析学の適用 ：子どもと教師が変わる効果的な研修プログラム(準備委員会企画シンポジウム 5,日本特殊教育学会第 46 回大会シンポジウム報告) 特殊教育学研究　46(5), 332
6. 渡部 匡隆 , 岡村 章司 , 安達 潤 , 井上 雅彦 , 衛藤 裕司 , 小林 重雄　2009 広汎性発達障害の治療教育プログラムの展開(2)：社会性の障害とその支援を中心に(自主シンポジウム 15,日本特殊教育学会第 46 回大会シンポジウム報告)　特殊教育学研究 46(5), 346-347

＜著書・単行本＞

1. 井上雅彦 (2007) 特別支援教育の理論と実践　特別支援教育士資格認定協会編　上野一彦・竹田契一・下司昌一監修　金剛出版　行動面の指導［Ⅱ］指導 pp159-174
2. 井上雅彦 (2007) 不登校を伴う高機能自閉症児への包括的支援　行動療法を生かした支援の実際　小野昌彦・奥田健次・柘植雅義編　東洋館出版社　pp92-107
3. 井上雅彦 (2007) よくわかる発達障害　小野次朗, 上野一彦, 藤田継道編　ミネルヴァ書房　pp104-105　pp140-141
4. 井上雅彦 (2008) 家庭で無理なく楽しくできる生活・学習課題 46—自閉症の子どものための ABA 基本プログラム.学研
5. 井上雅彦　(2009) 自閉症のある子どもの余暇活動の支援　発達障害の臨床的理解と支援　石井哲夫監修　3 学齢期の理解と支援　安達潤編著 149-158
6. 井上雅彦　(2009)自閉症スペクトラムのある人に余暇スキルを教える 発達障害の臨床的理解と支援　石井哲夫監修　3 学齢期の理解と支援　安達潤編著　159-165
7. 井上雅彦 (2009) 自閉症児の教育　冨永光昭・平賀健太郎　特別支援教育の現状・課題・未来 ミネルヴァ書房
8. 井上雅彦 (2009) 心理教育的援助サービス　使える教育心理学　安齊順子・荷方邦夫　北樹出版
9. 井上雅彦 (2009) 広汎性発達障害に対する行動論的アプローチ　発達障害の臨床心理学　東京大学出版会
10. 井上雅彦・三田地真実・岡村章司　2009　子育てに生かすＡＢＡハンドブック　応用行動分析学の基礎からサポートネットワーク作りまで　日本文化科学社

＜学会発表　国内＞

1. 古谷奈央・井上雅彦　2009　通常学級の担任に対する問題行動への対応に関する e-learninng 研修の効果　　第 35 回日本行動療法学会発表論文集,326
2. 小泉和子・井上雅彦　2009　ADHD 児における教室場面での問題行動の低減　　日本

特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,390

3. 井上雅彦　2009　発達障害のある不登校児童生徒への支援－支援事例を中心に－教育セッション　日本行動分析学会第 27 回年次大会,
4. 井上雅彦・井上祐紀・石川信一・石坂務・久野能弘　2009　発達障害児の二次的な障害・併存障害の臨床　　行動療法士会企画シンポジウム　第 35 回日本行動療法学会発表論文集,94
5. 井上雅彦・秦基子・野村和代・佐野基雄・石坂務　2009　行動問題に対する教育現場での効果的技法に関する文献研究Ⅰ　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,473
6. 石原広保・井上雅彦・佐々木和義　2009　問題行動に対する「チェック式機能分析シート」の小学校授業場面での効果の測定　第 35 回日本行動療法学会発表論文集,328
7. 石坂務・宮崎光明・井上雅彦　2009　特別支援学校における教員研修プログラムの開発と有効性の検討(1)　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,280
8. 宮崎光明・石坂務・井上雅彦　2009　特別支援学校における教員研修プログラムの開発と有効性の検討(2)　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,281
9. 望月昭・武藤崇・井垣竹晴・井上雅彦・山岸直基　2009　Behavioral Human Serviceology at Twenty　What is a Heart of Behavior Analysis?　学会企画シンポジウム　日本行動分析学会第 27 回年次大会,
10. 野村和代・鈴木将文・井上雅彦　2009　強度行動障害特別処遇事業における事例報告の分析　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,475
11. 大羽沢子・井上雅彦　2009　自閉症児の人物画指導における人物画表情表現の獲得(2)　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,453
12. 酒井美江・宮崎光明・井上雅彦　2009　自閉症児における将棋のルール獲得　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,466
13. 秦基子・井上雅彦・野村和代・佐野基雄・石坂務　2009　行動問題に対する教育現場での効果的技法に関する文献研究Ⅰ　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,474
14. 梅永雄二・武蔵博文・渡部匡隆・坂井聡・服巻繁・井上雅彦　2009　自閉症の人への様々な支援アプローチ　　準備委員会企画シンポジウム　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,47

永田雅子

＜学術論文＞

1. 永田雅子　他職種との協働 - 臨床心理士　　特集明日の周産期医療への提言　周産期医学 39(9)　1282-1286　2009
2. 永田雅子　臨床心理士のこれからに向けて Neonatal Care22（12）1216-1217　2009
3. 永田雅子　“いる（Being）”ことの治療的な意味 - 2 年間の乳幼児観察を通して -　心理臨床 - 名古屋大学心理発達相談室紀要 25　（印刷中）　2010

＜著書＞

1. 永田雅子　周産期から乳幼児期の親子関係への支援　本城秀次監修　子どもの発達と情緒の障害　岩崎学術出版　95-108,　2009
2. 永田雅子　周産期の母性心理　　山中美智子編　赤ちゃんに先天異常が見つかった女性への看護　メディカ出版　62-69,　2010

＜学会発表＞

1. 永田雅子、細溝さやか　かかわりにくい・育てにくい子どもを育てる親への育児支援教室の効果（1）　親の育児ストレスの検討　日本小児精神神経学会第 102 回大会　名古屋　2009
2. 細溝さやか、永田雅子　かかわりにくい子どもを育てる親への育児支援教室の効果の検討（2）　一事例を通した親の心理過程の検討　日本小児精神神経学会第 102 回大会　名古屋　2009

野邑健二

＜学術論文＞

1. 野邑健二：広汎性発達障害児の不登校．本城秀次監修：子どもの発達と情緒の障害，岩崎学術出版社，東京，228-239、2009.
2. 野邑健二、金子一史、本城秀次、石川美都里、松岡弥玲、辻井正次：高機能広汎性発達障害児の母親の抑うつについて　小児精神と神経，2010（印刷中）

＜学会発表＞

1. 野邑健二、天野美鈴、畠垣智恵、小倉正義、吉川徹、石川直子、小島里美、能島頼子　2009　3 歳児健診における要経過観察児童のフォローアップ研究—年少児巡回を行って—，第 50 回日本児童青年精神医学会総会.

宮地泰士

＜学術論文＞海外

1. Maekawa M, Iwayama Y, Nakamura K, Sato M, Toyota T, Ohnishi T, Yamada K, Miyachi T, Tsujii M, Hattori E, Maekawa N, Osumi N, Mori N, Yoshikawa T. A novel missense mutation(Leu46Val) of PAX6 found in an autistic patient. 462(3): 267-271. 2009
2. Takeshi Nishiyama, Hitomi Taniai, Taishi Miyachi, Koken Ozaki, Makoto Tomita, Satoshi Sumi. Genetic correlation between autistic traits and IQ in a population-based sample of twins with autism spectrum disorders (ASDs). Journal of Human Genetics. 54(1): 56-61. 2009

＜学術論文国内＞

1. 舟橋吉美、今枝正行、石川道子、宮地泰士　通常学級におけるクッション設置による座位援助 -学級単位での離席行動調査から-. LD 研究 18(3): 284-289. 2009
2. 石崎優子、深井善光、永井章、宮島祐、宮地泰士、大塚頌子. 小児心身医学会薬事委員会 2004~2008 年度活動報告. 子どもの心とからだ 18(2): 326-332. 2009
3. 宮地泰士. 学齢期の広汎性発達障害　小児科診療 73(4): 611-615. 2010
4. 宮地泰士, 石川道子, 井口敏行, 今枝正行, 浅井朋子. 広汎性発達障害児における不登校の発生状況とその対応について. 小児科臨床.　2010 in　press
5. 吉橋由香、神谷美里、宮地泰士、辻井正次. 高機能広汎性発達障害男児の自己の感情の認知. 小児の精神と神経 49(3): 201-211. 2009

厚生労働科学研究費補助金　障害保健福祉総合研究事業
発達障害児に対する有効な家族支援サービスの開発と普及の研究

平成21年度　総括・分担研究報告書

主任研究者　辻井　正次

平成22（2010）年　3月31日

〒470-0393　豊田市貝津町床立101
中京大学　現代社会学部
TEL　0565-46-1260　Fax　0565-46-1298
E－mail　mtsujii@sass.chukyo-u.ac.jp